

〈3.11以降〉読書会「震災を読み解くために」

この読書会について

◆「〈3.11以降〉読書会」は、あるひとつの本を取り上げ、それを参加者みんなと一緒に読んでいくものです。この読書会では、他の人々と共に読むということを最大限活かし、一つの本に対する人々の多様な「読み方」を大切にします。そうして参加者どうしが協力し合い、触発し合って、〈震災〉という出来事を——それを直接に扱う「震災関連書」を一人で読むだけでは辿りつけないようなところまで——深く「読み解く」ことができるような場でありたいと願っています。

初回に取り上げる本について

◆ 初回から何回かに渡って、まずはジャン=リュック・ナンシー著「フクシマの後で 破局・技術・民主主義」（渡名喜庸哲訳、以文社）をじっくりと読み解いていこうと思います。さしあたり目標とするのは、この本の第一章「破局の等価性」を読み切ることです。

フクシマの後で 破局・技術・民主主義／

ジャン=リュック・ナンシー(著)、以文社

第一章には、ナンシーが、2011年12月17日に東洋大学で行ったウェブ講演会「ポスト福島哲学」で発表された原稿を元にして公刊された文章が収められています。ジャン=リュック・ナンシーはフランスの（今も存命中の）哲学者で、渡名喜さんによる「訳者解題」によれば、「フランス現代思想」の系譜に位置するほとんど「最後の生き残り」であるそうです。読書会を進めるに当たっては、とにかく量よりも質を重視します。たとえば一回に一節も進まない場合があることも覚悟しておいてください。しかし文書の理解は文書の全体にも依りますから、初回や2回目までにはせめて第一章の全体には目を通しておいてください。そのさいに各人が全く理解できなかった箇所、気にかかった箇所、印象的な箇所が必ずあるはずですから、まずはそこを糸口に読書会を進めていこうと思います。（文責：綿引周 てつがくカフェ@せんだい）

◆開催日：平成 25 年 4 月 29 日（月・祝日）

◆時間：16 時開始、2 時間

◆場所：Cafe Mozart Atelier（カフェ モーツァルト アトリエ）

仙台市青葉区米ヶ袋 1-1-13 B1F/参考 URL；<http://cafe-sendai.jp/store/mozart.html>

◆参加費：650 円（お茶代+座席料）

◆申し込み：要事前申し込み（お名前とご連絡先を明記の上、開催前日までに下記宛にメールにてお申込みください。

わたひき

◆申し込み・問い合わせ先：philcsendaiaw@gmail.com（綿引まで）

「震災を読み解くために」読書会の理念



私たちは、読書会というかたちで本を読むことが、単に一人で本を読むときには得られないような、格別の効果をもたらすものだと考えます。

第一に、ある一つのテキストを巡る多種多様な意見や思いに触れることによって、自分一人の理解がいかにか特殊なものであるかを知ることができます。これを反対から言うと、本を読む営みのもつ“豊かさ”に気づくことができるということです。ふだん多くの人にとって、一つの本を巡る解釈について誰かと熱く語り合う機会などそうないのではないのでしょうか？ そうだとすれば、ふだん自分がどのくらい“特殊な”読み方をしているのかもわからないはずですが、それは「読みの複数性」と言い表わすことができるような、読むことの“豊かさ”を引き出せていないということです。さらにまた、テキストを共に読むことで、読書会に参加する人々の（普段は隠された）多様性、豊かさにも触れることができます。これも日常の当たり障りない会話からは決してできないことです。

また、第二に、読書会に参加し、他の参加者と協力することによってテキストと真に向き合うことができるというのも、読書会のもたらす効果の一つです。この読書会ではあくまで「震災」という出来事との関連性を保つテキストを取り上げる予定ですから、テキストと真摯に向き合い、共に参加する人々の力を借りながら、「自分なり」を乗り越えた読み方で〈震災〉という出来事を見つめ直すことができるという点にも、この読書会に参加することの意義があるのではないのでしょうか。

私たちは、読書会という読みのかたちがもつ特性を最大限活かしながら、深く〈震災を読み解く〉ことを理念とし、そのための仕掛けをなるべく多く用意していきたいと考えています。

文責：綿引周（てつがくカフェ@せんだい）